

平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 八児 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学, 英語)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 数学, 英語)

主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※全ての実施教科で、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問うようにしています。

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語、数学、英語)の結果

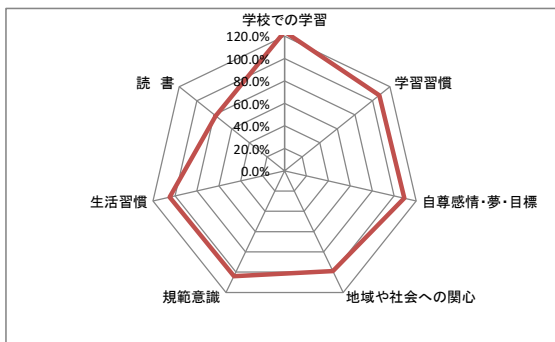
本年度の結果	国語		数学		英語	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	6.9	69	8.9	56	10.6	51
全国	7.3	73	9.6	60	11.8	56

※英語「話すこと」調査に関しては、参考値のため、集計から除外している。

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全国平均正答率より、やや下回っている。文章に表れているもの見方や考え方について自分の考えをもつ問題や論の展開にふさわしい語句や文章を検討する問題では、高い正答率になっている。文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉えることや、話合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつことに課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	文章に表れているもの見方や考え方について自分の考えをもつ問題	
	努力が必要な問題	文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える問題	
数学	全体的な傾向や特徴など	全国平均正答率より、やや下回っている。総合的・発展的に考察し、得られた数学的な結果を事象に即して解釈する力は全国平均より高い。また、結論が成り立つための前提を考え、説明する問題でも、全国平均正答率に比べ、高い正答率となっている。資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することには、課題が見られる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	証明で用いられている三角形の合同条件を書く問題	
	努力が必要な問題	グラフ上での意味を事象に即して解釈する問題	
英語	全体的な傾向や特徴など	全国平均正答率より、やや上回っている。日常的な話題についての情報を正確に聞き取る力や簡単な文で書かれたものの内容を正確に読み取る力は高く、正答率も高くなっている。文の中で適切に接続詞を用いる問題については、2問とも全国平均を下回っており、課題であると考えられる。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	簡単な語句や文で書かれたものの内容を読み取る問題 まとまりのある文章を読んで、話のあらすじを理解する問題	
	努力が必要な問題	適切な接続詞を選択する問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> 朝食を毎日食べる生徒が100%である。また、起床・就寝時刻についても定刻である生徒がほとんどである。また、「学校の規則を守っている」生徒が100%であり、基本的な生活習慣が身に付いていることがわかる。 読書を「全くしない」割合と、休みの日などに図書館に「ほとんど、全く行かない」割合が高く、読書習慣の点では課題が見られる。 学校での学習活動については、話し合い活動や調べ学習の発表、主体的に課題に取り組む姿勢等の割合が高く、授業に取り組む意欲の高さがうかがえる。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- 「主体的・対話的で深い学び」を目指し、今後も話し合い活動や他者との協働を意識した授業づくりを行う。
- 各教科において、定期考査前等に放課後質問教室による補充学習を行い、基礎学力の定着を目指す。
- 考える過程を重視し、主体的に思考・判断する力を身に付けることができるよう、授業展開を工夫する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 計画的な家庭学習の定着に向けて、各教科や学級で指導を行う。
- 学校図書館を積極的に活用できるよう、図書のパネルや貸し出し数の増加の推進を図り、家庭と連携して文字に親しむ機会を増やす。
- 調査結果から見えた課題とその解決に向けた取組を、ホームページや学校だより、PTA理事会等で保護者に説明し、家庭と連携して学力向上を図る。